



User's Voice

BD バキュテイナ® プッシュボタン ウルトラタッチ™ ブラッドコレクションセット

採血室の効率向上への貢献



地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
臨床検査科 血液・生化学検査室
髭野 明美





Q1 施設の特徴について教えてください

大阪国際がんセンターは2017年3月に大阪府立成人病センターから名称変更し、移転して開院しました。病床数500床の特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院で、理念は『患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発』です。病院の名称に、国際という言葉を入れたことには、国際レベルの医療と患者サービスを実現したいとの思いが込められています。がん患者さんのストレス軽減に積極的に取り組み、初診当日に問診、検査、診察が1日で完結することを目的とし、その日のうちに入院予定が立つクイックイン外来を実施しています。また、笑いと医療の研究や、クラシックコンサートの開催、院内各所に140点ほどの現代アートを展示するなど、癒やしにも取り組んでいます。

Q2 施設における臨床検査科の役割について教えてください

当院の臨床検査科は、血液・生化学検査室、遺伝子・微生物検査室、輸血検査室、生理機能検査室、病理・細胞検査室で構成されています。2014年度から、全体最適を合言葉に病院の業務改善が始まり、その際に臨床検査科はクイックイン外来を成功させるため、検査結果報告時間の短縮を目的とした、入院検体検査の早朝化を開始し、また、外来採血の待ち時間短縮などの業務改善に現在も積極的に取り組んでいます。

Q3 採血の状況について教えてください

1日の平均採血患者数は約450名。最近では外来患者数の増加(約1300名)に伴い採血患者数も増加しています。採血担当者は、臨床検査科所属の非常勤採血専任看護師が7名と、検査科各部署からの検査技師応援体制により朝の混雑時には合計12名で対応しています。

新センターでの患者増、旧センターからの運用改善を踏まえ、余裕ある広さの採血室に採血台を12台設置し採血室内の患者誘導も工夫しました。採血台は6台ずつピンクとブルーに色分けし、中待合の大型モニターにどの採血番号がピンクとブルーどちら側で採血予定かを表示しています。呼ばれる採血台に近いほうで待機して頂くことで順番が来た時に分かりやすく、移動もしやすくしています。また12台の採血台は全て自動昇降台とし、全台で車いすに対応できる体制を取っています。

採血には神経損傷予防など安全上の理由で100%翼状針を使用しています。真空採血とシリンジ採血の割合は、真空採血が約70%、30%以上がシリンジ採血です。



Q4 施設の患者さんの特徴について教えてください

当院はがんセンターであり、ほとんどががん患者さんということが一番の特徴です。がんの治療、化学療法の影響で採血困難者の割合が一般病院に比べて高くなっていると思います。化学療法の影響で採血が困難な患者さんの場合にはシリンジ採血を選択することが多くなります。つまり採血困難患者さんが約30%以上占めているということになると思います。

Q5 BDバキュテイナ® プッシュボタン ウルトラタッチ™ ブラッドコレクションセット (以下ウルトラタッチ) 導入前の採血の状況についてお聞かせください

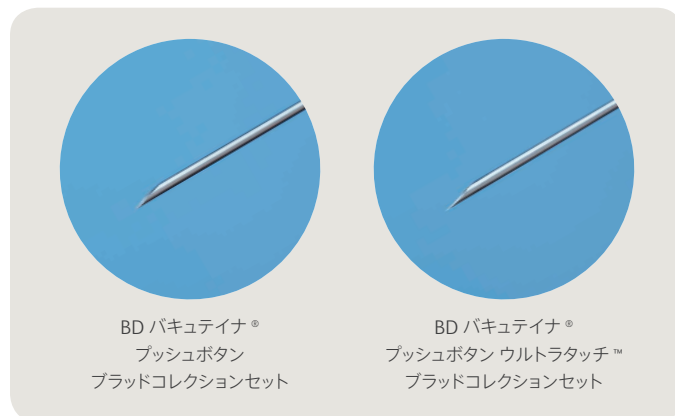
採血の際は、まず患者さんの血管の太さや張りを確認し、採血用具の選択、方法を決めます。針は21Gから23Gまで準備していて、原則、血管が細くなるにつれて細い針を選択します。ただ、針が細くなるにつれて針の穿刺抵抗が高くなり、刺しにくいということを感じており、細い血管で採りにくい上に23Gはさらに穿刺しにくいという状況でした。しっかり血管を固定していても血管を逃すことがあり、成功するまでに何度も差し替えることもありました。

Q6 ウルトラタッチを導入しようとしたきっかけと経緯について教えてください

当院は採血用具について、使いやすさと安全面でより良いものがあれば導入し、改善をしてきました。穿刺抵抗が25%程度減少されている(※同社従来品と比較して)ウルトラタッチをBDさんに紹介され、サンプルを使用させていただきました。実際、穿刺抵抗が低く、穿刺しやすいことに大変驚きました。採血速度が23Gでもかなり速く、これは採血困難者の採血に絶対使用したいと思いました。ただコストが課題でした。従来使用していた針と比較すると約3倍のコストがかかっても、今まで苦労してきたことが解決できるのなら使用したいというのが本音でしたが、病院の衛生材料として採択されるかどうか不安でした。しかし、従来の針であれば3、4本使うこともある採血困難者の採血が一度の穿刺で終わればコストは同等或いは低くなることを、選択した理由に加え申請しました。結果、採血の成功率が上がり失敗が減るのであれば患者さんの痛みも軽減され、クレームが減り、さらには待ち時間短縮にもつながるであろうということで、新規採用の物品として承認されました。

Q7 ウルトラタッチの使用感についてお聞かせください

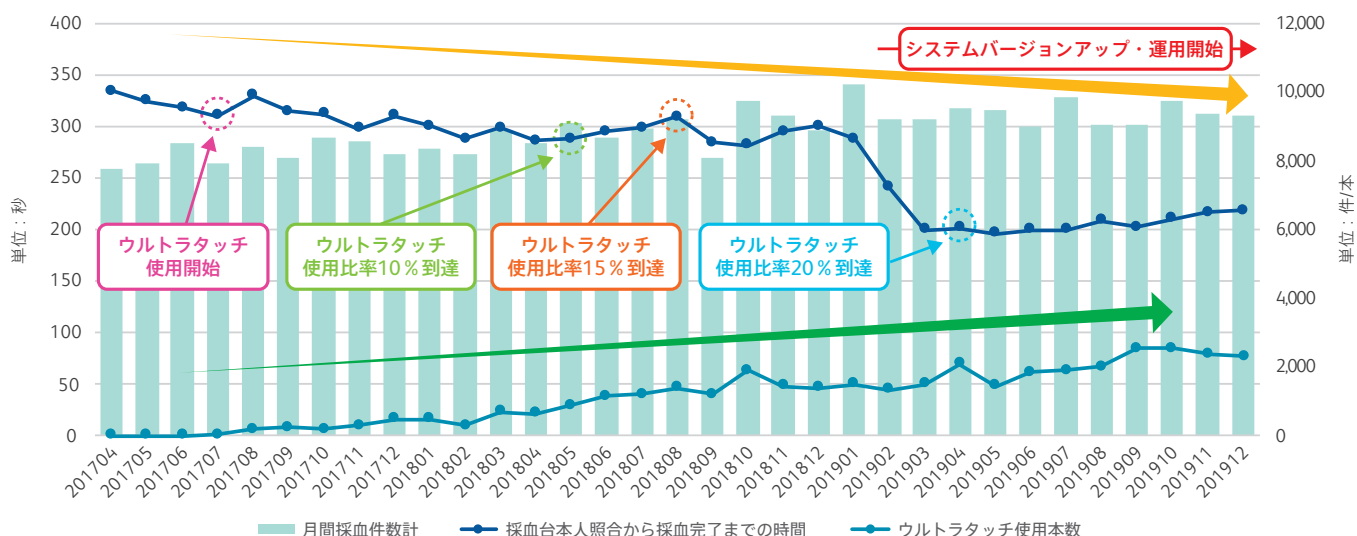
実際に採血業務で使用し、穿刺抵抗の低さと流入速度の速さを実感しました。細い血管でも捉えやすく、抗がん剤等の治療で硬くなった血管を逃がすことも減ったように思います。血管が細いにも関わらず依頼検査項目が多い場合は採血管の本数が多く採血に時間がかかっていましたが、ウルトラタッチを使用した場合は流入速度が速く、ストレス無く採血管に入っていくことを全員が実感していると思います。



販売名: BD バキュティナ ブラッドコレクションセット
医療機器認証番号: 220AFBZX00064000

Q8 ウルトラタッチは採血室の効率向上、時間短縮に貢献できていると考えますか?

グラフは当院の月間採血件数、採血台本人照合から採血完了までのどれだけ時間を要しているか、更にBD バキュティナ® ウルトラタッチ™の使用本数推移をグラフ化したものです。当院でウルトラタッチの使用を開始したのは2017年の7月ですがその頃は採血件数全体の1%程度の患者さんにしか使用しておりませんでした。その後徐々に使用頻度が増え、2018年5月には全体の10%程度使用するにまで至りました。採血台本人照合から採血完了までの時間はウルトラタッチの使用本数の上昇と共にゆるやかに短縮している傾向にあることがお分かりいただけるかと思います。2018年8月頃からは穿刺困難患者さんに対してウルトラタッチをさらに積極的に使用するようになり、採血件数全体に対するウルトラタッチの使用比率が15%に到達しました。2019年2月には当院の採血支援システムがバージョンアップされ、受付から採血台呼出までの待ち時間も短縮されました。丁度この頃からウルトラタッチの使用比率も平均20%まで到達し始めました。まだまだ解析は必要かと思いますが、採血件数全体に対するウルトラタッチ使用比率のゆるやかな上昇に対し、採血時間は短縮傾向にあることから、ウルトラタッチは採血の時間短縮に少なからず貢献できていると考えています。



Q9 ウルトラタッチの穿刺の Tips について教えてください

採血困難者は血管が細く、張りが弱い場合が多くあります。血管を拡張させるためのホットパックは常時準備し、使用しています。さらに張りを良くするために採血台を通常よりも下げるなどの工夫もしています。採血部位が心臓より低くなると血管は浮きやすくなり、細い血管でも確認しやすくなる場合があります。手背採血の場合でも採血台をなるべく下まで下げ、怒張するのを待ってから穿刺すると成功率が上がります。血管をしっかり固定することもとても重要です。

新人トレーニングにも力を入れています。就職後各検査室に配属されるまでに約2カ月の研修期間がありますが、採血は可能なかぎり毎日トレーニングするようにしています。トレーニングでは真空採血だけでなくシリンジ採血とウルトラタッチを使用した手背採血も練習します。そのような難しい採血もトレーニング中に練習しておいて、実際に患者さんの採血を担当した時にも対応出来るようにしています。ただ、自分で無理だと判断した場合は直ちに先輩が交代するようにしています。

Q10 ウルトラタッチの総評について

ウルトラタッチを採用するまでは、採血困難な患者さんはかなり苦勞し、時間がかかっていました。ホットパックを使用することで血管は拡張し刺しやすくなりますが、それでも難しい人は時間がかかっていました。ウルトラタッチを採用してからは、時間が顕著に短くなりました。本当に穿刺困難な患者さんは今でも時間がかかっていますが、それでも全体で見るとかなり時間短縮になっており、採血の回転はかなりアップしています。当院は止血検査がある場合、23G 針での採血は流入速度が遅く時間がかかるため、検査結果への影響を考慮原則実施していません。しかし、ウルトラタッチであれば 21G 並みの流入速度なので、採血困難者の止血検査も 23G で採血できるようになりました。また、穿刺痕が分かりにくいのもいいですね。採血後に止血パッドを貼りますが、穿刺した穴が見ただけでは分からない時があります。

Q11 日本ベクトン・ディッキンソンに対して期待することをお聞かせください

私達日本の採血者の要望を今よりももっと取り入れてほしいと思っています。日本のどこの現場も、改良してほしいと思う点があるはず。それを吸収し改善努力をしてくれるメーカーであってほしいです。その結果効果が出たという報告があれば大変喜ばしいことだと思います。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 髭野明美

2011年4月～2019年3月 臨床検査科 副臨床検査技師長

2019年3月 定年退職

2019年4月～ 主に外来採血業務を担当

所属学会：日本臨床衛生検査技師会

製造販売元

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

〒960-2152 福島県福島市土船字五反田1番地

本社：〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ

カスタマーサービス ☎ 0120-8555-90 FAX: 024-593-3281

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.

©2020 BD. All rights reserved.

62-134-00

